

平成 27 年度事業ならびに活動報告

1. 事業活動概況

平成 27 年度の活動計画にもとづき、産業に係わる安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図った。今年度は会員及び会員以外の有識者から意見を伺うアドバイザリーボードを開始し、幾つかの提言をうけ、常置委員会にて検討を行った。

研究・教育事業では例年開催している研究発表会を 12 月 3・4 日に新潟市朱鷺メッセコンベンションセンターで開催し、例年並みの 207 名の参加があった。特別講演 2 題、情報セキュリティの OS は好評であった。「安全」に関して、過去の活動記録の確認を行い、今後 PR を検討する事となった。

「安全教育」について、他の情報をうけて学会としての対応を議論しようと進行中である。

普及啓発一般事業では、例年と同様、会誌“安全工学”を発行し、各種講習会セミナーを開催した。また、アドバイザリーボードより PR をすべきとの提言を受けて、HP での活用、幅広い分野での原稿収集や、講習会案内の発信法など改善を進めた。論文投稿者は 7 件と例年並みに低迷した。特集号は「情報セキュリティ」を特集し、会員外からも好評を得た。会誌の電子化を検討し J-stage による公開の準備を開始した。安全工学セミナー参加者は物質危険に関する講座参加は低迷傾向が続いているが、参加者から好意的な意見が多く寄せられた。プラント安全、安全マネジメント関係は多数の参加があった。実験講座は、爆発状況が体験できることから例年参加者は多い。災害事例研究会は企業の要望が高いが、具体的テーマを取り上げることが出来ず 1 回しか行えなかった。今年は、三井化学技術研修センターを利用させてもらい、安全教育者・管理者のための安全教育セミナーを開催、募集定員一杯の参加を得た。地域・企業に講師を派遣する支援セミナーは 3 地区・団体向けに実施。1 団体に講師を紹介した。

普及啓発事業において、「保安力向上センター」は設立 3 年目に入り、支援会員が 3 社増え、計 23 社となり、普及会員は 13 社となった。支援会員へのセンター評価は 5 社 5 事業所で実施。この他、有償のセンター評価を 8 社 21 事業所で実施した。現状の評価システムの課題、新会員の要望を踏まえた評価システム Ver2.0（評価表、評価表解説、用語解説）を検討構築した。又、自己評価員の力量向上を目的に 6 回のセミナーを開催した。センター評価員はセンター評価研修を終了し、現在 14 名となった。センター設立 2 周年を機に、成果報告会を 8 月 3 日に開催、130 名が参加した。

経済産業省保安課より昨年に続き、平成 27 年度石油精製業保安対策事業（現場保安力維持・向上に向けた調査・分析）」に関する委託を受け、昨年検討した現場保安力マトリックスについて、石油、石油化学、鉄鋼、製薬他、

中小事業所計 10 カ所において試行を行い、「現場保安力評価マニュアル」を作成した。又、良好事例を体系化し、現場保安力活動を強化出来るよう「現場保安力強化マニュアル」を作成した。さらに、より客観性を確保し強化を効率的に行う体制の検討も実施した。報告書は 3 月 10 日提出した。

安全工学会を中心に、保安力向上センター、公益財団法人総合安全工学研究所、特定非営利活動法人災害情報センターの 4 団体組織で安全工学グループを組織化する準備を開始した。

安全工学会の会員は法人会員 80 社、普通会员は 574 人と減少傾向が継続している。企業退職者の退会が目立つ。

2. 特定非営利活動に係る事業

2.1 安全工学に関する研究・教育事業

(1) 第 48 回安全工学研究発表会

開催日時：平成 27 年 12 月 3 日（木）、4 日（金）

実施場所：朱鷺メッセコンベンションセンター（新潟市）

参加者：207 名

一般講演：20 セッション 67 件

OS 講演：1 タイトル 4 件

特別講演：2 件

技術展示協賛：11 件

ポスター協賛：8 件

(2) 研究・教育事業管理

①学術委員会

4 回実施、研究発表会の準備・反省、「安全の体系化」確認等

②安全工学研究発表実行委員会

第 48 回研究発表会に向け 1 回実施

③医療安全研究会

6 回の研究会を練馬総合病院などで開催

④廃棄物安全研究会

今年度は休止

⑥次世代安全研究会

1 回の研究会を産総研会議室にて開催

⑦プロセスケミストリー標準モデルWG

8 回 東工大大岡山キャンパス会議室などで開催

2.2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌発行“安全工学”

① 印刷体の発行（Vol.54, No.2～Vol.55, No.1）総頁：519 頁

平成 27 年 4 月，6 月，8 月，10 月，12 月、平成 28 年 2 月発行

特集：Vol.54, No.6 特集号「情報セキュリティ」の他、
小特集「自動車の運転と自動運転」、「社会と取り組む子供の障害
予防」、「自然災害に対する防災・減災」を発行

② 電子化について議論

会誌の電子化・閲覧を検討し、J-stageでの公開準備を開始。2016
年4月号より開始予定。

(2) 講習会・セミナー

① 第37回安全工学セミナー

開催場所：化学会館又は砂防会館 会議室

A. 物質危険性講座

開催日：平成27年9月16日(水)、17日(木)

参加者：12名

講師：新井充氏、鶴田俊氏、松永猛裕氏、田中則章氏

B. 危険現象講座

開催日：平成27年10月22日(木)、23日(金)

参加者：15名

講師：山隈瑞樹氏、土橋律氏、三宅淳巳氏、若倉正英氏

C. プラント安全講座

開催日：平成27年11月18日(水)、19日(木)

参加者：28名

講師：島田行恭氏、角田浩氏、高木伸夫氏、二宮光良氏、
菊池武史氏、柴崎敏和氏

D. 安全マネジメント講座

開催日：平成28年1月14日(木)、15日(金)

参加者：19名

講師：野口和彦氏、半田安氏、梅崎重夫氏、向殿政男氏、東瀬朗氏

② 第16回安全工学地域セミナー（日程ずれ込み以下実施）

開催日：平成28年4月19日(火)

開催場所：三菱化学(株)四日市事業所（四日市市）

参加者：22名

講師：松永猛裕氏、別府眞佐三氏、

内 容：講演の他、事業所見学、体験研修設備見学

③ 第29回安全管理の最新動向講習会

開催日：平成27年5月18日(月)、19日(火)

場 所：化学会館

参加者：19名

内 容：化学プラントの事故から学ぶこれからの安全管理

中村昌允氏

安全管理活動におけるヒューマンファクターズ 岡田有策氏

ヒューマンファクターツールを活用した従事員
 の“安全力”の向上 楠神 健氏
 独立研究所での OSHMS を活用した安全管理の
 取組み事例 木田泰孝氏
 建設現場の安全管理への取組に関する活動事例 須藤英明氏
 航空会社における安全管理の最新動向 田中龍郎氏

④ 第 14 回安全工学実験講座

場 所：日本カーリット（株）危険性評価試験所
 開催日：平成 27 年 6 月 1 日（月）、2 日（火）
 参加者：20 名
 講 師：（有）PHA コンサルティング 飯塚義明氏
 日本カーリット（株） 鈴木康弘氏
 内 容：安全工学関連物性評価試験、過去の事故事例を参考にしたモデル実験、

⑤ 災害事例研究会

a) 第 49 回災害事例研究会

場 所：化学会館
 開催日：平成 27 年 7 月 16 日（月）
 参加者：22 名
 内 容：知られざる物質・反応危険 松永猛裕氏

⑥ 安全管理責任者・安全教育担当者のための安全体験、安全教育セミナー

開催日：平成 28 年 1 月 21 日（木）、22 日（金）
 場 所：三井化学（株）技術研修センター
 参加者：20 名
 内 容：講演 重大災害予防のための安全教育戦略 東瀬 朗氏
 体験 安全体験コース（5 講座）
 運転・設備トラブル体験コース（4 講座）
 グループ討議

⑦ 地域・企業支援セミナー

a) 芳香族工業会大会

場 所：盛岡市
 開催日：平成 27 年 10 月 15 日（木）
 派遣講師：中村昌允氏
 「岐路に来たこれからの化学プラントの安全管理」

b) 新日鐵住金株式会社

場 所：富津事業所
 開催日：平成 28 年 2 月 16 日（火）
 参加者：約 50 名

派遣講師：中村昌允氏

「岐路に来たこれからの化学プラントの安全管理」

c) 丸善石油化学株式会社

場 所：丸善石油化学株式会社千葉工場

開催日：平成 28 年 3 月 7 日（月）

参加者：約 100 名

派遣講師：楠神龍郎氏

「ヒューマンエラーを知って、職場の安全力を高めよう！」

d) 講師紹介

・ 尼崎市消防局 紹介講師：山隈瑞樹氏

(3) 安全懇談会

① 事業所長との安全検討会

今年度から石油化学工業協会との共催にて開催。

a) 四日市地区の事業所長懇談会

開催日：平成 27 年 10 月 5 日（月）

場所：四日市 都ホテル

参加者：6 社 7 名（出光興産㈱、東ソー㈱、コスモ石油㈱、J S R ㈱
昭和四日市石油㈱、三菱化学㈱）、石化協 唐津保安衛生委員
長他 2 名、安全工学会 伊藤会長他 1 名

b) 平成 28 年 4 月 18 日（月）岩国・周南地区 9 社による懇談会を実施
した。

(4) 書籍（改訂）発行

① 新安全工学便覧の改訂検討

平成 11 年発行後、16 年経過しており、内容の見直し改訂検討を行う
こととし、準備会を発足、目次の見直しに着手した。

(5) 普及啓発事業管理

① 編集委員会

毎月（計 12 回）の編集委員会の他、特集号の企画委員会を開催。

② 普及委員会

4 回開催

③ 会誌電子化検討会

前年継続し 1 回開催。

④ 新安全工学便覧改訂準備会

4 回開催

2.2.2 普及啓発事業：保安力向上センター関連事業

設立 3 年目に入り、支援会員が 3 社増え、計 23 社となり、普及会員は
13 社となった。支援会員へのセンター評価とともに有償のセンター評価も
精力的に実施した。支援会員へのセンター評価は 5 社 5 事業所で実施。こ
の他、有償のセンター評価を 8 社 21 事業所で実施した。 現状の評価シ

システムの課題、新会員の要望を踏まえた評価システム Ver2.0（評価表、評価表解説、用語解説）を検討構築した。又、自己評価員の力量向上を目的に 6 回のセミナーを開催した。センター評価員はセンター評価研修を終了し、現在 14 名となった。センター設立 2 周年を機に、成果報告会を 8 月 3 日に開催し 130 名が参加した。法人としての独立の可能性について継続検討中である。

(1) センター評価

- | | |
|--------|------------|
| ① 支援会員 | 5 社、5 事業所 |
| ② 有償評価 | 8 社 21 事業所 |

(2) 自主評価員講習

化学工業日報社の支援により 6 回開催

(3) 事業管理

- | | |
|--------------------|-------|
| ① 保安力向上センター支援会員連絡会 | 2 回開催 |
| ② 保安力向上センター運営委員会 | 2 回開催 |
| ③ 保安力向上センター顧問会 | 2 回開催 |
| ④ 保安力向上センター評価推進委員会 | 5 回開催 |

2.2.3 普及啓発事業：受託事業

(1) 経済産業省保安課委託事業

「平成 27 年度石油精製業保安対策事業（現場保安力維持・向上に向けた調査・分析）」

内容：昨年検討した現場保安力マトリックスについて、石油、石油化学、鉄鋼、製薬他、中小事業所において試行を行い、「現場保安力評価マニュアル」を作成した。又、良好事例を体系化し、現場保安力活動を強化出来るよう「現場保安力強化マニュアル」を作成した。さらに、より客観性を確保し強化を効率的に行う体制の検討も実施した。

*契約期間：平成 27 年 8 月 19 日～平成 28 年 3 月 10 日

- | | |
|---------------|---|
| ① 有識者検討会 | 3 回 |
| ② 検討調査ワーキング | 4 回 |
| ③ 事務連絡会他打ち合わせ | 20 回 |
| ④ マトリックス試行事業所 | 10 件 |
| ⑤ 調査体制 | 有識者 4 名、オブザーバー 2 名
検討調査ワーキング委員 5 名、研究員 8 名 |

2.3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

・安全工学に関する情報提供のホームページ改善

随時ホームページ修正を行った。今後、安全工学会の P R に向けホームページのあり方について継続検討する。

2.4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

安全工学に貢献した優秀論文、及び安全に関して学術・技術・啓蒙、本学

会の発展に貢献した功労者を選考した。又、研究発表会に於いてすぐれた発表をした若手研究者を選考した。

表彰式は総会で実施予定。(表彰者は別紙報告事項参照)

(1) 安全工学論文賞選考委員会

平成 28 年 3 月 23 日(水) (選考委員 5 名)

(2) 玉置功労賞、北川学術賞選考委員会

平成 28 年 3 月 29 日(火) (選考委員 6 名)

(3) 奨励賞選考 (学術委員会にて選考)

平成 27 年 12 月 15 日(火) (委員 7 名)

2.5 安全工学に関する国内外の団体との連携及び協力

(1) 安全工学グループの立ち上げ推進

安全工学関連団体である公益財団法人総合安全工学研究所、特定非営利活動法人災害情報センターと共に保安力向上センターを含めた安全工学グループの立ち上げの準備を開始した。

(2) 学協会との連携

(一社) 日本工学会、高圧ガス保安協会などに会員として継続加入。

今年度、新規に防災学術連携体の発足に伴い参加した。

(3) 安全工学シンポジウム 2015 (第 45 回)

開催日時：平成 27 年 7 月 2 日 (木), 3 日 (金)

実施場所：学術会議

主 催：日本学術会議

幹事学会：土木学会

共 催：32 学協会

一般講演：48 件

OS 講演：12 題 64 件

特別講演：3 件

パネルディスカッション：2 パネル、11 講演

安全工学会参加セッション：

OS；石油、化学産業における変更管理と安全

座長：大石正彰氏、

発表者：田邊雅幸氏、佐藤尊彰氏、村磯肇氏、百永眞士氏、

中村昌允氏

2.6 管理業務

(1) 総会 (1 回)

開催日：平成 27 年 5 月 28 日 (木)

開催場所：化学会館

出席者：委任状を含め 443 名

特別講演：「情報セキュリティ：

スタンド・アローンの制御システムにも」

(林紘一郎氏：情報セキュリティ大学院大学教授)

(2) 理事会 (4 回)

平成 27 年 5 月 14 日 (木) 理事 13 名 監事他 6 名

場所：アロマビル 701 会議室

内容：平成 27 年度総会議決事項の審議 (H26 年事業報告・決算報告、H27 年事業計画・予算、H27 年役員変更)、平成 26 年度学会賞選考審議、定款細則改正、定例報告、総会開催要領確認他

平成 27 年 7 月 14 日 (火) 理事 12 名 監事他 3 名

場所：アロマビル 701 会議室

内容：常任理事選任、定例報告の他、学会課題を議論、石化協「社長の安全メッセージビデオ」紹介

平成 27 年 11 月 13 日 (金) 理事 14 名 (5 名書類参加) 監事他 4 名

場所：アロマビル 701 会議室

内容：規程類改訂、役員推薦委員会、保安力向上センター法人化、防災学術連携体へ入会等審議、定例報告、学会課題議論

平成 28 年 3 月 9 日 (水) 理事 12 名 監事他 3 名

場所：アロマビル 701 会議室

内容：平成 27 年度活動状況、収支見通し、平成 28 年度活動計画及び活動予算審議、マイナンバー制に対応した規程類整備審議、定例報告、学会課題議論

(3) 常任理事会(1 回)

平成 27 年 9 月 18 日(金) 常任理事 9 名、事務他 1 名

場所：アロマビル 702 会議室

内容：アドバイザーリーボード提言事項の検討状況議論

(4) 評議員会

平成 27 年 5 月 28 日 (木) 実施 出席者 8 名

(5) 監事会

平成 27 年 5 月 2 日 (金) 実施

(6) 委員会

① 総務委員会

4 回実施

② 企画委員会

2 回実施

③ アドバイザーリーボード

安全工学の関係者から安全工学会の活動に対して、学術・普及・運営の事項に関して助言を頂き、学会の活性化を図ることを目的に、企業代表、学術有識者、学協会連携関係者、マスコミ関係者など幅広い視点から参加いただいた。

平成 27 年 4 月 1 日(水) ボードメンバー9 名、学会側委員 8 名

平成 28 年 3 月 2 日(水) ボードメンバー6 名、学会側委員 7 名

(7) 現場研修会

①開催日：平成 27 年 9 月 15 日（金）

開催場所：一般社団法人 自動車技術研究所

内容：水素・燃料電池自動車の安全性評価試験設備見学

参加者：25 名

②開催日：平成 28 年 2 月 15 日（月）

開催場所：ANAグループ安全教育センター（ASEC）

参加者：38 人

内容：事故機体の展示物、航空機事故後の対応や改善事項見学、ヒューマンエラー体験

以上